

消防職員専科教育火災調査科（第46期）

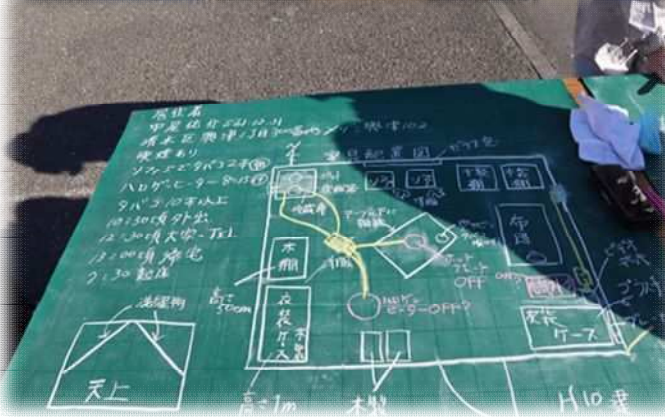
The 46th Fire Investigation Course

令和3年12月13日（月）から12月24日（金）まで、火災調査科を実施し、県内16消防本部（局）から41人の消防職員、静岡県警察本部から12人の警察職員の計53人が入校しました。

この火災調査科は、平成25年度から警察職員を受け入れて実施しています。消防の「調査」と警察の「捜査」と目的は違いますが、火災原因の究明に消防・警察の立場は関係なく、ともに安心・安全なまちづくりを目指すことに変わりはありません。

学生は火災調査関係法規からはじまり、車両火災見分要領、原因調査要領、損害調査、製品火災鑑識要領、電気火災などの教育を受け、最後に、実際に燃やした模擬家屋の火災原因調査を実施しました。

～調査でも 人を救うことができる～





(担当教官から)

学生たちは、国民の生命・身体・財産を守ることを念頭におき、「火災調査」の最大の目的である「類似火災の防止」のために、火災の知識と火災原因究明の調査技術の習得に励み、学びの中で、火災調査は大変な仕事であるが、誰かがやらなければならない重要な業務であることをしっかりと認識したと思います。また、消防職員と警察職員が共同生活をする中で、互いに共通の認識を持ち、信頼関係を築けたことは、今後、警察との合同調査に活きると確信しています。

また、講義をしていただいた各講師の皆様には感謝申し上げます。今回は、第46期の学生が火災調査のスペシャリストとなり、火災調査科の講師として戻ってくるのが講師への最高の恩返しであると考えます。

教務課主査 望月 竜之介 (志太消防本部より派遣)

消防団員幹部教育指揮幹部科分団指揮課程(第7期)

令和3年12月12日(日)に指揮幹部科分団指揮課程を開催し、県内の消防団から48人が参加しました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、宿泊を伴う土日の教育訓練から、1日訓練とWEB講義の視聴によるハイブリッド方式としました。参加者は、座学やシミュレーション訓練を通じて、消防団の管理運営や常備消防との連携等、幹部に求められる事項について教育を受けました。

また、「消防団の活性化に必要なこと」というテーマでグループワークを行い、地域における様々な課題や解決策について相互に理解を深めました。



シミュレーション訓練



グループディスカッション

(担当教官から)

教育の実施方法の大きな変更にも柔軟に対応し、積極的にWEB講義を視聴され、学校でのシミュレーション訓練等に熱心に臨む姿を見て、消防団幹部の責任感、使命感を感じました。本教育で得た知識を各消防団に持ち帰っていただき、消防団の活性化、ひいては地域防災力の強化に努めていただきたいと思います。

教務課主査 谷澤 俊光(県職員)

消防団員幹部教育初級幹部科（第13期）



令和3年12月19日（日）、消防団員幹部教育初級幹部科を開催し、班長の階級にある方を中心に43人が入校しました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、宿泊を伴う土日の教育訓練から、1日訓練とWEB講義の視聴によるハイブリッド方式としました。

防災や安全管理に加え、基本的な火災性状の理解と消火戦術に関する講義をネット配信するとともに、焼津市消防団ドローン隊“SKY SHOOT”を外部講師とするドローン訓練や、学校教官による現場指揮訓練を実施し、指導者として必要な現場管理能力の養成を目指しました。寒波の影響で厳しい寒さにも関わらず、参加者の皆さんは熱心に訓練に取り組んでいました。

（担当教官コメント）

例年とは異なるかたちでの実施となりましたが、訓練中に疑問点を積極的に質問したり、WEB講義を繰り返し視聴するなど、参加者の皆様のモチベーションの高さが至るところで感じられました。

今回学んだ内容について各消防団の皆様にフィードバックしていただくとともに、日々の訓練や今後の現場活動に活かしていただけましたら幸いです。

教務課主任 土屋 裕一（県職員）



新型コロナウイルスの校内感染状況

令和4年1月11日から始まった救急科での入寮中の学生において、新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生し、関係者の皆様に多大なる御迷惑と御心配をおかけしました。

当校としましては、出来る限りの感染対策を行ってまいりましたが、オミクロン株の感染力の強さから感染が広がってしまい、感染対策の難しさを痛感しました。

訓練の中には、寮生活を行わなければならない訓練もあることから、今後も、職員一同、感染対策の徹底を図っていきますので、今までと変わらぬ皆様の御理解と御協力をお願い致します。

○学校の対応の経緯

1月11日（火）救急科学学生128名のうち50名が入寮。（他にリモート講義受講者78名）

1月12日（水）学生1名、発熱等のため退寮。

1月13日（木）同学生、PCR検査受検。

同学生以外の学生49名、宿直教官1名及び担当教官1名の抗原検査を実施し、全員陰性を確認。

1月14日（金）同学生のPCR検査結果陽性のため、同室学生1名退寮。

学生48名及び出勤している教職員全員（17名）に抗原検査を実施、学生4名陽性。午後、入寮者全員退寮、PCR検査受検を指示。→全員PCR検査受検。

1月17日（月）全学生へのリモート講義開始。

太田校長のちょっといい話



2022年になり、学校では救急科が始まりましたが、入校後すぐに、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生してしまいました。不幸中の幸いといえますが、感染対策としてリモート講義が可能な学生は各消防本部等での受講であったため、入寮学生は、全体の約4割の50人でした。しかし、そのうちの約6割が感染する状況となってしまいました。(自分を含めた教職員の感染がなかったことには、少し胸をなで下ろしましたが)

学校としては、マスク着用・手指消毒の徹底、一日3回の検温、抗原検査の実施、空気清浄機能付オゾン発生器による教室等の消毒など、出来るだけの感染対策は行っていたつもりでしたが、オミクロン株の感染力の強さを目のあたりにすることとなりました。

学生には、今回のクラスター発生の経験を糧として相手の立場に立てる立派な救急隊員になっていただきたいと思います。

今月はパンデミックを目のあたりにしましたので、命についてふれている名言を紹介したいと思います。

「下を向かず、上を向いて星を眺めることを忘れないでください。人生がどんなに困難に見えても、必ずできることがある。諦めさえしなければ、生きてさえすれば、必ず望みはあるものです。」車椅子の天才科学者として有名なスティーブ・ホーキング博士の言葉です。

私は、SF小説も好きで宇宙に対しても興味はありましたが、「ホーキング宇宙を語る」を読んでから、宇宙物理学に興味を持つようになり、多少難しい本も読むようになりました。(理解しているかという点別ですが)

ホーキング博士は、ALS(筋萎縮性側索硬化症)のため、人生の半分以上を車椅子で過ごし、晩年には会話自体も困難でしたが、パソコンのアイトラッキングと人工音声を使って世界中で講演を行っており、日本講演をテレビで見た時には、知への貪欲さと、人に伝えることの重要性を改めて感じさせられました。

「自分の価値は自分で決めることさ。つらくて貧乏でも自分で自分を殺すことだけはしちゃいけないよ。」幕末の幕臣で、江戸無血開城を西郷隆盛と談判した勝海舟の言葉です。

幕末は、日本史の中でも戦国時代とともに人気があり、それこそ百花繚乱で、倒幕側の薩長土肥だけでなく、幕府側にも優秀な人材が多数いたと思います。勝てば官軍負ければ賊軍なので、新撰組等の一部を除けばあまり小説等の題材にされていないのですが、いかにして負けるかを考え実行するのは、ものすごい大変なことだと思います。(昨年の大河ドラマ「晴天を衝け」でも垣間見ることが出来ました)

どちらの言葉も、人生に絶望するような状態になっても、自分というものを信じて生きていくことの大切さを語っています。コロナ禍が続き世間全体が暗い状況が続いており、SNS等による誹謗中傷やいじめに関するニュースも毎日のように流れる現在の状況にあっては、この言葉の持つ意味について、改めて考える必要があると感じています。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞご覧ください。

静岡県消防学校

検索

